KNOWLEDGE STRUCTURE

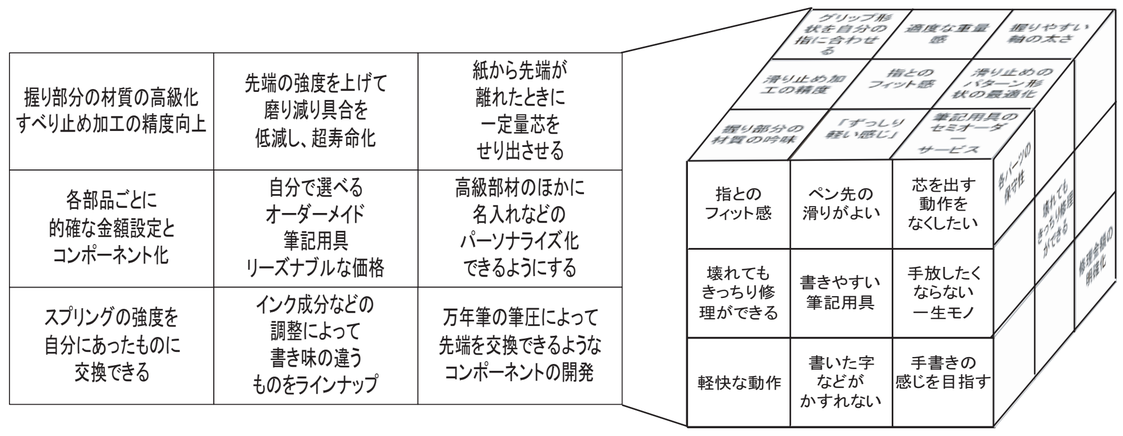
システムズアプローチ

発想やひらめきを表出化するシステムの研究

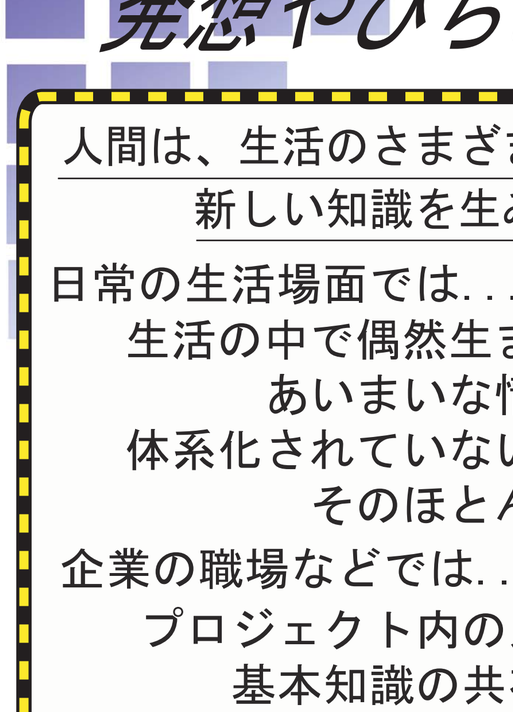
人間は、生活のさまざまな場面で思考を働かせ、
新しい知識を生み出しながら行動している。しかし....

日常の生活場面では...
生活の中で偶然生まれた発想などは、
あいまいな情報として記憶されている
体系化されていない知識は、
そのほとんどが時間とともに風化してしまう

企業の職場などでは...
プロジェクト内の人間同士の
基本知識の共有がうまくできない
そのうえ、知識の共有ができていないと
自分が伝えたい情報と違うものが相手に伝達される



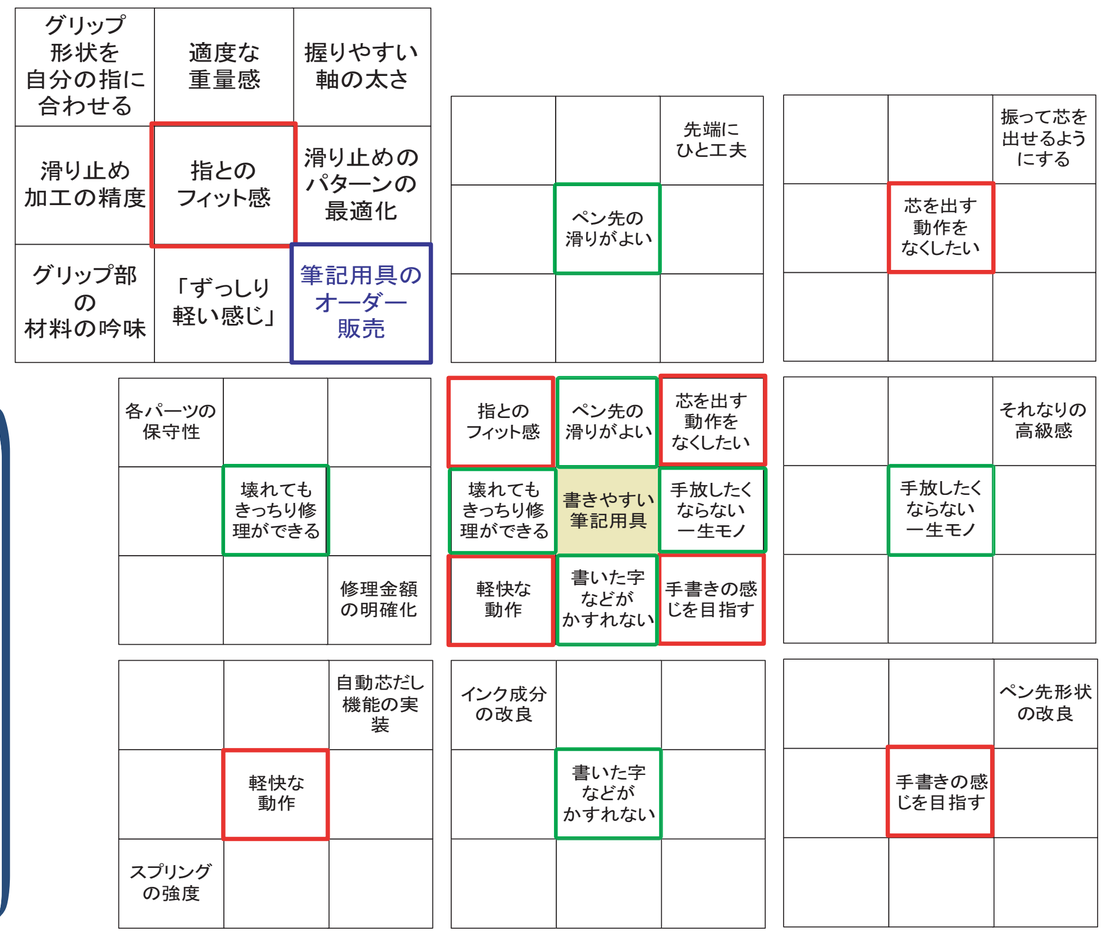
魔方陣をルービックキューブ化して
キーワード全体を分析を行い、発想から新たな知識の表出化へ



マルチタッチ
インターフェースデバイス

上記の問題を
解決支援するには?

知識の表現構造と直感的な
インターフェースを持った
発想支援システム
や
知識形式化支援システム
の必要性がある



キーワードに対する知識の表現例

共同・協調活動支援システムに関する研究

近年では・・・
企業と大学が共同で研究を行うことが多くなっている。
また、海外との連携も多くなっている。
その時に重要となるのが意思疎通のための情報交換である。
コミュニケーションには様々な形態が存在し
右図ようなそのコミュニケーションに対する支援技術がある。

	フォーマル	インフォーマル
対面型	電子会議室 電子黒板	会話触発支援 安らぎ効果支援
分散型	分散会議システム メディアスペース	仮想空間 拡張現実感

コミュニケーションの形態

ビデオチャット画面
（研究室と海外）

アプリケーション共有画面の様子

組織のコミュニケーションは会話の時間や
相手、内容でふたつに分類される。
1．フォーマルコミュニケーション
仕事の報告や会議
2．インフォーマルコミュニケーション
リフレッシュエリアや廊下での雑談
会話を行う空間や環境では
1．同じ部屋で会話を行う対面型
2．地理的に離れた分散型

そこで本研究室では、文書や画像などの様々な資料を
グループ間で共有し、プレゼンテーションや同じデータを
操作することが出来るといったインタラクティブな環境
を構築し、グループにおける共同・協調活動を支援する
システムの研究を行っている。

COPYRIGHT 2005 SUGIYAMA LAB. ALL RIGHTS RESERVED